

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300376		
法人名	特定非営利団体 快		
事業所名	グループホーム快栗駒	ユニット名	
所在地	宮城県栗原市栗駒稲屋敷後原前13		
自己評価作成日	平成26年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改造した一軒家であり小規模ではあるが、家庭的な雰囲気大切にしており、地域に溶け込み親しまれている。職員の数も少なく活発に活動できないものの、その分それぞれの個性や特技を生かし、日々の生活や季節ごとの行事等を通して、入居者様に親しんで頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 26 年 11 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから11年目を迎える「快栗駒」は、栗原市の南にあり、近くに栗原市立南小学校がある。地域の定期清掃に管理者が参加する等、地域に溶け込むよう努め、野菜を頂いたり交流している。長く住まわれている入居者は、ホームが「我が家」となり、職員は知り合いであるとお互いを思い合う程、馴染んだ生活を送っている。職員不足から、過酷な勤務を強いられ、入居者の思いに充分に応えられていない現状に職員は、今、できる精一杯のケアに日々取り組んでいる。職員不足から運営推進会議が開催されなかった事と避難訓練が1回の実施だったので次年度の課題とした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム快栗駒)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を毎朝の申し送り時に唱和している。	「地域の人に支えられ・・・」を理念に掲げ、5項目の目標を設定し、始業前に唱和している。毎月テーマを設けた勉強会では、入居者の状態に応じて職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、総会や地域清掃等に参加している。集会所を利用し地域住民を交えた行事を開催したり、ホーム便りを毎月80部発行・配布している。	地区住民から、古新聞紙、古いタオル、野菜等を持ち込んでいただき、重宝している。年1～2回、行事に合わせて、踊り等のボランティアが入ったり、体験学習で中学校の生徒が肩もみや歌等、披露してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等に招待したりホーム便りを通じて情報を発信してはいるが、まだまだである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等に合わせて会議の機会を設け、入居者・職員の状況、活動の報告を行い、出席者よりご意見ご指導いただけるよう努めている。	平成25年10月以降、職員の勤務体制等の理由から、今年度は一度も開催に至らなかった。職員の補充が難しく、入居者が安全・安心した生活を送るよう支援することに追われている。	事業所の職員体制(勤務状況)やサービスの内容を見直し、現況の立て直しが先決と思われる。運営推進会議の開催を含めて、代表者を交え行政に相談する等考えて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や手続等の所用で訪問した際に随時相談等によって戴いたりしているが、より深い協力関係を築けるようにしていきたい。	介護保険更新や、生活保護利用者の手続きをしている。ホーム(運営推進会議開催)全体の事や、入居者にまつわる相談で行きたいと思っているが、行政に行ける状況にない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとは言えず、その都度声がけし合い、ミーティングや申し送り時に改善に向けて話し合っている。	行動を抑制する「だめ」「今、その時間じゃない」等咄嗟に職員が発する言葉を聞いた時にその都度、注意している。玄関が見えないようにカーテンで仕切る等している。地域の見守りがあり、これまでに何回か協力してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りを通して職員同士で話し合い、些細な言動などもその都度注意し合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を利用している入居者がおらず、権利擁護等の理解は薄い現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・退居前には本人及び家族に説明を行い、理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や自宅訪問、電話等で家族から意見・要望を聞き、反映はある程度できていると思われるが、疎遠になっている家族からの意見はあまり聞き取れずにいる。	入居者の状態が低下した時に、この状態でもホームで見てもらえるかや病院の費用に関する事、冷房が効きすぎている等、質問や意見が聞かれる。その都度説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティングや日々の業務の中で出た意見を本部代表者へ電話やメールで伝えている。	職員の勤務状況が過密であり、入居者に影響している。職員全員と代表者と時間をかけて話し合いの場を設けたが、未だに保留のままである。職員の疲れた様子を見て逆に入居者が気を使っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件改善が図れるよう本部代表者へ意見している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期ミーティングに合わせ1時間ほどの勉強会を行っている。職員の人数が少ないため外部の研修などは参加できていない現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じサービス向上を目指していきたいが、職員の手が足りずなかなかできていない現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安にならない程度に話しかけ、お話を伺ったり、ホームに馴染めるように話し相手を見つけてあげるなど、入居者同士の関係を作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、ホームの案内をするとともに、これまでの家族の苦労話を聞いたり、どのような対応を求めているのか聴いて支援するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活リズムを変えることなく、はじめは出来るだけ希望に沿って行い、困っていることを見つけて支援努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてを行うのではなく、入居者一人ひとりが「今」出来るお手伝いを見極めていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診などは本人と職員のみで受診しているが、家族が都合の良い時には一緒に受診するまで、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、馴染の場所やご自宅近くをドライブしたりしている。また入居前のお友達等にも気軽に来所していただけるような雰囲気づくりに取り組んでいる。	入居者同士が知り合いで良い関係にある。同級生がボランティアで来訪したり、知り合い、親戚が多く、来訪がある。時には、少人数で、懐かしい稲刈り風景や里山に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人では積極的にコミュニケーションが図れない方には、職員から話しかけたり寄り添ったりしている。また職員が間に入るなどして、入居者同士が関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したり、亡くなったりした際は、ご家族の話を聞いたりお手伝いをするなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の相談に加え、入居年数がたつにつれ希望や意向も変化して行くため、会話や表情から把握するよう努め、その都度話し合いなどを行っている。	職員と1対1になった時や、入居者の表情から探り、記録等に残し、対応している。入居者がホームに長くいる事で「我が家」と思い、職員は知り合いであり、入居者と職員の関係が強くなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族からこれまでの生活を聞き、入所後も変わらない生活を行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の本人の様子観察や、本人との日々のかかわりの中で、一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員、医師等との話し合いや相談などの時間をもち、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の生活の変化から見えたことを、記録から拾って受診時に主治医に相談し、その助言(薬の変更等)を加えて見直し、半年、一年の計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はもちろん、ちょっとした気づきなどを記録に残し、職員間での情報共有を図りながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を含め、その時々ニーズに合わせてサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生とのふれあい、地域野菜直売所の方との交流や、地域の方をお招きしての踊りの会など開催し、交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望などを含め、かかりつけ医とホームとの関係を深めながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医に5名、協力医に3名で職員が付き添い受診している。その情報等は、その都度家族に伝えている。精神科への受診も職員が付き添う等、入居者の状況に合った受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で得た情報や気づきなどを、定期受診時に看護師に、また専門科の精神保健福祉士の訪問時に相談し、適切な受診につなげ看護が受けられるよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して入院できるように、家族も含めながら病院関係者との情報交換や相談を行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	独自に作成した「見取り介護の指針」を参考にしながら、重症化や終末に向けての話し合い等に努めている。	医療的なことはできないので医師と相談をし、家族と話し合う場を設ける事を入居時に話している。重篤に至った経緯などについて、納得のいく説明をすることの大切さを学んだ。何例か看取りを行っている。医師の指示により最期まで支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、マニュアルや連絡体制を整備している。救命講習を受講し報告会・勉強会をするなど実践力を高める努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等や定期的なミーティングで現状に合った避難方法を確認したり、震度5以上の地震が発生した場合、全職員が集合するようにしている。	平成26年5月に1回、火元をボイラー室に想定した訓練を実施したが、県のガイドラインの回数を満たしていない。夜勤者を替え、役割分担、避難経路の確認を行った。地域住民には、その模様を見学して頂いた。	スプリンクラー設置や建物構造の見直し等、消防署から指摘を受けているが、経営者が大家さんと交渉中との事で保留となっている。早急な対応をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声がけに日々努めている。	入居者と職員が慣れ過ぎて、あだ名で呼ぶことがある。職員間で注意しあっている。男性は苗字に女性は名前に「さん」を付けて呼んでいる。衣類は本人が選んだり、外出時に薄化粧をする方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるよう、日々働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって職員側の都合を優先させるような言動がみられ、日々改善できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の持ち物の中で、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう日々努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、入居者と職員と一緒に準備や片付けができるようつとめている。希望を聞いたり、調理方法を教えていただいたりしている。	食材、野菜等の在庫を見て、「今日は何が食べたい」を聞いている。疾患等の制限、禁止食品は、みそ汁を薄めたり、水分を控えたり、体重測定で調整している。行事食、外食は入居者の希望により対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアができるよう努めている。歯科衛生士による口腔ケア指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の様子を観察し、排泄パターンに沿ってトイレ誘導してできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	入居者の表情や定時で交換をするオムツ対応が2名で、6名の方は、排泄サイン、介助、見守り等でトイレで排泄をしている。離床時不安定な方にはベッドからマットレスにする等、入居者の状態にあった支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングを図り、楽しく安全に入浴できるように支援に努めている。拒否のある方には声がけの仕方に工夫している。	2日に1回の入浴支援であり、日曜日は全員足湯をして、1週間の区切りとし、曜日の間隔を失わないようにしている。拒否がちな方には、声掛けを工夫したり時間をおいて誘い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅にいるような雰囲気の中で休息し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やゲームや歌、踊り等を楽しんでいただいている。一人ひとりの出来ることに合わせてお手伝い等をしていただき、やりがいを感じていただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて散歩に出かけられるよう支援に努めている。また本人の希望を聞きながら、買い物や外食・ドライブなど外出できるよう努めている。	天気の良い日は、ウッドデッキに出て、お茶を飲んだり、近所を散歩をすることもある。あやめ祭りや桜見のドライブなどもあるが、職員が手薄であり、車の故障で十分な支援をしているとは言えない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者に限られているが、お金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者に限られているが、本人様が書かれた手紙を郵送したり、面会時にご家族へ渡している。職員が代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造してのホームであるため、共用空間に限界があるものの、時間や季節感などを工夫し、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	入居者は居間で生活する時間が長いことや、車いす利用が多くなっていることでテーブルの配置等を工夫している。暖冷房の配慮はあるが空気の澱みがあり、窓を開けて空気を入れ替える等配慮して頂きたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間としては食堂兼リビング・ウッドデッキと限られるものの、それぞれが椅子やソファで歌など思い思いに過ごしていただけるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものや本人が大事にしているものなどの持ち込みをお願いしたり、お話を聞いて好みの雰囲気にするなど、自宅と同じような生活感で過ごしていただけるよう努めている。	居室はフローリングで、ベッド、エアコンが設えてある。床にマットレスに布団を敷き、転倒防止にする等工夫もある。入口には、手書きで入居者の自画像が貼られ、居室が特定できる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活が送れるように、安全・安心な環境づくりの工夫に努めている。		